

# 平成30年新春 講演会・産学官交流会

平成30(2018)年1月25日(木) 於:ホテル セントヒル長崎

## ■新春講演会



中野会長 挨拶

平成30年1月25日に平成30年新春講演会・産学官交流会を開催しました。

### 会長挨拶

明けましておめでとうございます。本日は寒い中、またご多忙の中新春講演会、産学官交流会にご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、ご講演いただきました山中先生のお話にもまず驚きました。我々はコンピュータ分野で長く仕事をしてきており様々な分野でコンピュータが利用される様を見てきていますが、The Machineと呼ばれるものの開発が進んでいることで様々な問題が解決できることに感動しました。

さて、今日の新聞を見ますと、働き方改革について我々中小企業も考えなければいけないと感じました。残業の規制や同一労働・同一賃金について数年後には対応をしなければいけない課題であると思います。

その働き方改革で大事なものは二つだと思えます。

①労働生産性を向上させること。  
②サービスの付加価値を高めること。  
これらを実現する上で、IoT技術・データ分析・AIの活用が重要だと思えます。IoTを積極的に活用することで企業の様々な課題を解決して欲しいと思えます。

そのためには積極的に現場に入るべきだと思います。考えても解決策はなかなか見えてきませんが、現場に入ることで見えるものがたくさんあるはず。最後になりますが、今日が皆さんにとって楽しい交流の場になりますよう祈念いたします。本日は、誠にありがとうございます。

## ■産・学・官 交流会

長崎県産業労働部企業振興課 宮地課長、長崎市商工部 片岡部長にご挨拶を頂きました。また、中締めを長崎大学 末吉教授にお願いしました。



県企業振興課  
宮地課長



市商工部  
片岡部長



長崎大学 末吉教授



産学官交流会の様子

# ■「我が社の一押し」 [NISA会員企業による事業活動発表会]

## ■株式会社 NDKCOM



株式会社NDKCOM 尾崎様

展示会主催者が利用する「展示会来場者情報管理システム」について紹介がありました。一般消費者向けの展示会における主催者や出展企業の課題を解決するものであり、課題を明確にするとところから作成されたものです。

### 1. 課題

#### 1-1. 主催者側

- ①展示会開催中のリアルタイムな集客情報が分からない。
- ②展示会終了後の紙情報の集計に時間と手間がかかる。
- ③展示会終了後のブースを訪問していただいた方へのフォローが難しい。
- ④出展者が出展への効果を疑問視しているため出展者を集めるのに苦勞する。

#### 1-2. 出展者側

- ①ブースを訪問して頂いた方の情報収集が難しい。
- ②出展による費用対効果が分かりづらい。
- ③展示会終了後のブースを訪問していただいた方へのフォローが難しい。

### 2. 課題の解決

- ①. 事前申し込みwebシステム
- ②. 当時受付システム
- ③. 各ブースで情報を収集するシステム

これらのシステムにより主催者は出展社が必要な一般訪問者向けの営業情報を提供することが出来ます。その結果、出展をしていただいただけという仕組みです。

### 3. QRコードの活用

招待者をデータベースに登録することで招待状を簡単に出すことができます。印刷されるIDカードには個々を識別できるQRコードが印刷されています。このコードをタブレットでスキャンすることで入力の手間が省略できますリアルタイムに情報を得ることができるようになります。

### 4. 開発資金

ものづくり補助金を活用した。1ヶ月の実証実験を車の販売店で行い、来場者にはどのような車を購入したいか等の希望を聞いてタブレットで入力した。このようなデータが集まれば顧客の希望に副った営業を展開することができる。

### 5. QA

- Q1. 紙媒体からDBへの入力は大変ではないか？  
A1. 自社のデータセンターを活用した  
Q2. 基本情報に家族情報も記載されるのか？  
A2. 様々な形態があるが、家族構成などを記載していただいている  
Q3. アンケートの集計は展示会毎に扱いたい項目が違うと思うが標準化するのか？  
A3. 現状では、項目を主催者と相談の上決めている

## ■NBC情報システム株式会社



NBC情報システム株式会社 荒木様

男性中心に考えられていた社会、職場、職種であったが、社内から持ち上がった女性をもっと活用すべきという意見を会社も後押しする形で始まった「女性研修について」の紹介がありました。

### 1. はじめに

女性の労働状況について昭和60年頃から現在までを比較してみると

- ・就業率up
- ・結婚や出産後の就業率はdown
- ・管理職up

### 2. 法律、優遇措置で女性の働きやすさ、活用を後押しする制度について

・女性活躍推進法・えるぼし認定、くるみん認定  
これらを達成することで助成を受けられる！  
当社では更に、3才以上で小学校入学までの子を養育する従業員は時間短縮勤務制度でサポートしている。

### 3. 女性研修について

これまで4回、毎年実施した。基本的に全女性社員参加が必須。女性課長職を中心として企画・実施。実施後のアンケートを次年度の参考にする。

#### 1回目テーマ:素敵に働く女性に向けて

外部の女性幹部講師を招き、まず自分を見つめなおすことから始めた。

#### 2回目テーマ:価値観ババ抜き

自分達の価値観についての想いを話しあう。

#### 3回目テーマ:コミュニケーションをみがこう

部下や自分より若い人に対しての伝え方、自分の言いたいことをしっかり言うこと、自分の目標やありたい姿を描くことを行った。

#### 4回目テーマ:アサーティブコミュニケーション

気持ちを伝える、断り方、時間の使い方、物事の事前・事後にしっかりディスカッションをすることの大切さを学んだ。

上記以外でも、パネルディスカッションによる働き方セミナーや講師の実体験に基づく働き方を聞いた。育児期間の乗り越え方や仕事の満足感を得ること、仕事を評価してくれる人の存在も重要であることを学んだ。

### 4. おわりに

これからますます女性の活躍が重要だと思います。IT業界も男女幅広く人材を求めていきたい。仕事の満足と家庭の幸せについてバランスをとっていきたい。

#### Q1. 女性だけの研修をするきっかけは？

A1. 女性社員が多かったこと、男性管理職からの提案があったこと。

#### Q2. 今後、男性だけの研修を考えるか？

A2. 考えていない、女性にフォーカスをあてたい

Q3. 女性が将来に目標を持つやり方は良いですね  
男性にも研修が必要では？

A3. 男性にも目標は必要ですね、そこは考たい

## ■「講演会」

### ■HPE(Hewlett Packard Enterprise)

「2020年 コンピューターはどのように進化するか ～人類の新たな挑戦 The Machineプロジェクト」



HPE 総合エバンジェリスト 山中様

#### 1. HPの状況について

NASAからの仕事で、火星で動くコンピュータを作っている。火星から地球まで電波で片道20分かかかる現状から火星で何かあっても対処信号が届くのは40分後でありとても対処できない。しかも、メモリが宇宙線を浴びるとデータが変わるという問題がある。これを現地で対応するためメモリをチェックし変わったらすぐ元に戻す技術が必要となる。

HPはこれらにも取り組んでいる。

#### 2. HPのこれまで

1939年(S14年)シリコンバレーで1番目の会社。

日本では東芝が創業。

計測器から始めて、コンピュータ製作へと変化。

2011年に女性CEO就任、自社の強みを分析し、2015年、HP(パソコン、プリンタ、タブレット)とHPE(業務用サーバー・ストレージ)に分社化。一般的には業績低迷による分社化は見かけるがHPの場合、自社の強み、目指すものを明確化することで株価もアップした。

その後、SGI社、SimpliVity社買収により大量のデータを扱う市場やデータ圧縮・仮想マシンベースの管理機能においてシェアを拡大した。

#### 3. 2020年の推察

##### ①企業の競争相手は個人

ハードウェアや部品(ソフトウェア含む)の低価格化により個人でも早く・安く、製品を作ることができるようになってきた。

アイデアの種を早く花に育てることをしなければ競争に勝てない。

<ポイント>

- ・少額の投資で多くの経験を得る
- ・少人数で意志決定を早くする
- ・企業の強みは育てた花を増やせること
- ・初めはパブリックなクラウドを使い、大きくなったら社内に持ってくる

#### 4. The Machineというテクノロジー

コンピューティングで多くの電力を消費している。

(例) 世界第1位の消費国はアメリカ、2位中国、3位ロシア、4位日本、5位クラウドコンピューティング、6位インド

このままでは、電力が不足してしまう！

ビッグデータ時代におけるメモリ主導型コンピューティングで世界最大(160TB)の単一メモリ空間を持つコンピュータを発表した。

これが、The Machineである。

これを使えば、4096ヨタバイトまでは容易に拡張できると予想されており、地球上の全てのデータを扱うことが可能であると思われる。

#### The Machineを構成する技術

##### ①メモリスター(memristor)

メモリとハードディスクを1つにしたUniversal Memoryとすることでハードディスクを介したデータ転送速度が遅い課題を解決することができる。

##### ②CPUとメモリ間を光でつなぐ

従来の結線では距離、速度の問題があったがマシン内部に配置したCPUとメモリを光でつなぐことでこれらを解決できる。

※Gen-Zコンソーシアムという業界団体が設立されており、Gen-Zプロトコルが標準手順となる

The Machineテクノロジーにより、小型化・省電力化が実現できれば多くの課題を解決することができる。

The MachineのOSは、独自のOS開発も検討したが、従来のアプリケーションが容易に動かせる環境でなければ使われないということで、Linuxを採用した。

#### 5. QA

Q1. 自動車の自動運転は、エッジコンピューティングの世界だと思うが、Raspberry Piくらいの大きさの物でいつ頃実現できると思いますか？

A1. The Machineを皆さんが使うことはあまり想定できません。エッジとクラウドがつながっているような仕組みで気付かない内に使っているような感じだと思います。目の前の装置で情報を入力してクラウドで大規模な処理を素早く行い結果を返すということです。

Q2. マルチコンピューティングではCPUを効率よく使う技術が大変だったが、LinuxではThe Machineのコントロールが大変では？

A2. 単一のコンピュータを扱うので楽になる

Q3. コンピュータによる消費電力不足問題を耳にするが？

A3. CPUとメモリを光でつなぐことで下がる

Q4. クラウドサービスでなくては生き残れない？

A4. クラウド化は進んでいくが安くはない。

社内で安く使えるコンピュータは無くならない。従って、それに付随する仕事も無くならないと考えています。

